

## 第1回リレー式授業改善協議会概要

平成26年10月8日(火)  
ホルトホール大分 大ホール

### 1 講演 「全国学力・学習状況調査を活用した学力向上の取組～学校での取組を中心として～」

講師 文部科学省初等中等教育局参事官 塩崎 正晴氏

#### ①平成26年度全国学力・学習状況調査の結果】

##### 《全国の状況分析》

- ・活用に課題があるが全体的にレベルが上がっている。下位校が全国平均に近づき差が縮まっている。
- ・言語活動の充実や総合的な学習の時間における探究的な学習と学力調査結果との相関関係。
- ・学習を支える基盤の大切さ。家庭学習の大切さ。

##### 《大分県の状況分析と課題》

- ・上位校と下位校との開きが大きい。全体として下位校が多い。→下位層の底上げができていない。
- ・過去にも出された問題の改善がなされていない。(中学、数学A) →過去問題の活用ができていない。
- ・無解答率が高い。(中学、数学B)
- ・児童生徒質問紙と回答状況も分析の必要あり。

#### ②学力向上の取組分析(学校での取組を中心として)

- ・指導と学力の関係、指導と学習習慣の関係をクロス集計から分析する必要がある。
- ・『めあて』『まとめ』等において児童生徒と教師に意識のズレがある。そこをなくしていく。
- ・全国学力調査結果の良好な県の特徴から学んでいく。
- ・不利な環境を克服している児童生徒の家庭や学校における取組を参考にすることも大切。

### 2 講演 「生活を切り拓く力を育てる学習指導」

講師 岐阜市立長良中学校 校長 原 尚氏

- ・全国学力・学習調査では、上位校。特に活用Bが優れている。もっと伸ばしたい。磨きたい。
- ・『豊かな学力』学校で成すことは、学力保障・成長保障・進路保障である。教科指導も生徒の教科の引き出しに収めるのではなく、生活を切り拓く力の引き出しに収める感覚が大切。
- ・『自らの意思で動く人間』少人数・習熟度での学び。夏休みの講座は自ら選択。生徒の主体的な動き
- ・『課題追究集団への道』学校で許される失敗はさせる。あえて波風を立てる指導。思春期ならでは。

### 3 パネルディスカッション 「組織的に学力向上を進めるために必要なリーダーシップ」

大分県3校の校長・岐阜市原校長 計4名によるディスカッション

- ・西の台小→教師の授業改善、自主公開研を活用、校内研修の充実
- ・緑が丘小→教師に求められているもの、取組の必要性、当たり前、自分自身の言動の振り返り
- ・長洲中→組織の活性化、一枚岩になる意識改革、学校経営参画のためのミドルリーダーの育成

### 4 説明 「学力調査の目的と学力向上に向けた今後の取組」 義務教育課長 後藤 栄一

- ・学力調査の目的確認と今後の活用について再度確認してほしい。
- ・学力調査分析(成果と課題)
- ・今後の取組について・「新大分スタンダード」提示。全学校・全教室で実施。